

# ピエール・ロチの長崎滞在

ロチが初めて長崎に来たのは1885年7月8日、35歳の時で、長崎滞在は36日間と短いですが、長崎に着くとすぐ、おカネさんと暮らし、この経験をもとにした作品「お菊さん」が1887年に刊行される。

二度目の来崎は1900年、ロチ50歳の時で、義和団事件のために中国に向かう軍艦に海軍中佐として乗り組むが、その船は長崎港に、1900年12月から翌1901年4月まで停泊した。その時は時間もあり、長崎の町をゆっくり散策し、とりわけ寺町界隈の墓地を訪れるのが楽しみだったようである。滞在記「お梅が三度目の春」は1905年に発表された。



↑ピエール・ロチ(後列右)とおカネさん



↑おカネさん(「お菊さん」のモデル)



←落成後のピエール・ロチ記念碑  
長崎歴史文化博物館蔵

現在のピエール・ロチ記念碑→

